

第3章 青葉山エリアの基本的方向性

1 青葉山エリアのコンセプト、目指す将来像

仙台市基本計画における「まちづくりの理念」及び「目指す都市の姿」は、青葉山エリアの本質にも重なっている。こうした理念に、エリアの特性や強みを掛け合わせたものがエリアのコンセプトとなる。

仙台市基本計画における「まちづくりの理念」
「目指す都市の姿」（抜粋）

挑戦を続ける新たな杜の都へ

～“The Greenest City SENDAI”～

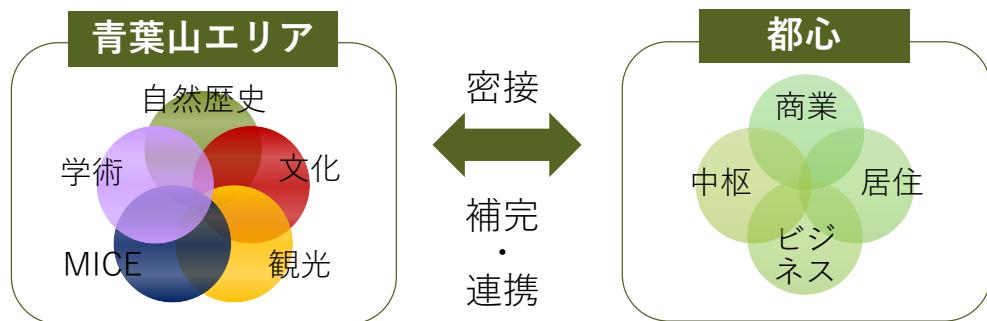
- 杜の恵みと共に暮らすまちへ
- 学びと実践の機会があふれるまちへ
- 創造性と可能性が開くまちへ

青葉山エリアの特性・強み

- 豊かな自然と歴史的遺産が残る特別なエリア
- 文化施設、教育・研究機関が集積する文教エリア
- 仙台城跡、瑞鳳殿等から成る本市の主要観光地
- 東北大学、仙台国際センターを中心とするMICE拠点
- 「学都・仙台」と、先端技術の創造・発信の重要拠点
- アクセスに優れた立地
- 更なる価値を創出するプロジェクトの進行

青葉山周辺は、本市基本計画において「国際学術文化交流拠点」と位置づけ、本市の持続的な発展を支える重要なエリアである。

商業やビジネス等の機能が集積する都心とは違った特性や強みを有しており、相互の機能を補完し連携することで、都市全体の魅力を向上させ、価値を創出している。



青葉山エリアのコンセプトの考え方

- ◆ 仙台のはじまりの地という特別なエリアであり、市民が愛着と誇りを持ち、訪れたいくなる場であること
- ◆ 歴史、文化、学術、自然などの資源に恵まれ、市民や国内外からの来訪者が多様な過ごし方、楽しみ方ができるエリアであること
- ◆ 音楽ホール・中心部震災メモリアル拠点複合施設の整備や、大手門復元に向けた調査など、エリアに新たな価値や魅力を加え、本市の歴史と未来をつなぐプロジェクトが進行していること
- ◆ エリアの資源・魅力を活用した活発な活動や交流を生むことにより、当該エリアが都心部を含めたまちの活性化を牽引していくこと

エリアのコンセプト（案）

「歴史」と「今」と「未来」をつなぐ
杜の都のシンボルゾーン

～ 特別な時間と空間を青葉山で ～

目指す将来像（案）

- 人々の心を惹きつけ、ふと訪れ、巡りたくなる
- 杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ
- 歴史や文化・芸術を伝え、創造性を育てる
- 学都の知と先端技術で未来社会をリードする